

10 ロイド＝ウエッバー

アンドリュー・ロイド＝ウエッバー (Sir Andrew Lloyd-Webber, 1948 -)

英国の作曲家。父は作曲家・オルガン奏者、弟はチェロ奏者。1960年代から作詞家ティム・ライスとともに舞台作品やコンセプトアルバムを製作、1971年の《ジーザス・クライスト・スーパースター》が大成功を収めて新世代のミュージカルの旗手となる。その後も《エビータ》(1978)、《キャッツ》(1981)、《オペラ座の怪人》(1986)などのヒット作を生み、20世紀後半を代表する舞台作曲家となった。



■ロイド＝ウエッバー作品の特徴

通作が多い
 ライトモチーフないし循環主題による統一
 多彩な音楽語法
 初期作品にみる宗教(＝キリスト教)性

■主要作品

- | | |
|--|-------------|
| ヨセフ・アンド・アメージング・テクニカラー・ドリームコート | 1968 |
| ティム・ライス作詞。旧約聖書による。最初は学芸会用の短編として作られ、その後改作された。 | |
| ジーザス・クライスト・スーパースター | 1970 |
| ティム・ライス作詞。聖書を題材にイエス・キリストの最後の7日間を描く。イエスを人間として描く視点が話題を呼んだ。 | |
| エビータ | 1976 |
| ティム・ライス作詞。女優からアルゼンチン大統領夫人となり民衆から圧倒的な支持を受けたエヴァ・ペロンの生涯を描く。 | |
| キャッツ | 1981 |
| T.S.エリオットの連作詩集をもとに作曲者とトレヴァー・ナンが捕作詞。個性的な猫たちが都会のごみ捨て場を舞台に、踊りと歌を繰り広げる。 | |
| スターライト・エクスプレス | 1984 |
| リチャード・スティルゴー作詞。子供の夢の中でおもちゃの列車たちが走り回る。役者たちが歌いながらローラースケートで滑走する。 | |
| オペラ座の怪人 | 1986 |
| チャールズ・ハート作詞。ガストン・ルルーの小説が原作。19世紀パリのオペラ座で繰り広げられる愛とサスペンスのドラマ。 | |
| アスペクト・オブ・ラブ | 1989 |
| デイヴィッド・ガーネットの小説により、ドン・ブラックとチャールズ・ハートが作詞。一人の女優とその周辺で巻き起こる様々な恋愛模様を描く。 | |
| サンセット大通り | 1993 |
| 1950年の同名映画(ビリー・ワイルダー監督)をもとにドン・ブラックとクリストファー・ハンプトンが作詞。往年の女優をめぐるサスペンス劇。 | |
| ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド | 1996 |
| 1961年の映画(ブライアン・フォーブス監督)によりジム・スタインマンが作詞。突然表れた一人の男を子供たちは神と信じ込む。 | |
| ウーマン・イン・ホワイト | 2004 |
| ウィルキー・コリンズの小説によりシャーロット・ジョーンズが台本。19世紀イギリスを舞台にした愛とサスペンスの物語。 | |
| ラヴ・ネヴァー・ダイズ | 2010 |
| グレン・スター作詞。「オペラ座の怪人」の続編、舞台をアメリカに移した、その後の怪人とクリスティーン物語。1年半ほどで終演となった。 | |